

民主化闘争情報

No. 979

2018年3月2日

発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR東労組が、2月27日になってようやく「申15号=2018年度賃金引き上げに関する申し入れ」を提出したことは既報のとおりだが（民主化闘争情報 No. 978）、3月1日、JR東労組は、矢継ぎ早に次の2つの申し入れを提出したようだ。「申20号=人権侵害、団結権侵害の『脱退強要』『不当労働行為』を直ちにやめ、社員を監視する異常な職場実態の是正を求める緊急申し入れ」、「申21号=一方的かつ違法な『労使共同宣言の失効通知』に対する緊急申し入れ」である。JR東労組は、2月末まで具体的な賃上げ要求も行わぬまま、約1ヶ月間「ベア実施の際の配分方式」ばかりを争点化してスト権行使準備を開始し、スト予告をしたかと思えば、1週間も経たぬうちにスト指令解除を行った。しかし、会社側に「スト指令解除の理由=‘会社とのベア方式等に係る認識の一致’」を全否定され、支離滅裂な言い訳を繰り返すという、文字通りの七転八倒ぶりだが、肝心の「春闘」の労使協議はどこへやら…？

春闘のメイン議題の協議どころか、「緊急申し入れ」の乱立

回答指定日3月14日がJR東労組の運命分岐点か？

「格差ベア」が回答ならば、どう‘闘う’??!

会社がJR東労組本部へ「労使共同宣言の失効」を通知した後、各支社長からも各地本へ丁寧に「労使共同宣言の失効通知」がなされているようだが、組織内ではこの重要な事実がきちんと伝達されていないと聞く。‘機能不全’‘大混乱’の中、JR東労組は3月14日を春闘要求の回答指定日として申し入れているが、この間、まともな協議もできないまま、いたずらに時は過ぎ、春闘の‘ヤマ場’は目前に迫っている。

望まぬ回答を想定し、再び争議予告するか？大量脱退が続く中「スト権確立」は有効？

連日、緊急の全地本委員長会議(?)が開催されているようだが、この緊迫した事態で、都合の良い‘落としどころ’を探るための知恵が絞られているのか、泣き落としの戦術が検討されているのか、はたまた首脳陣の中で責任のなすりつけ合いが繰り返されているのか。いずれにせよ、この間の会社側の徹底抗戦の構えに鑑みれば、JR東労組が主張してきている内容を会社が易々と飲むことはなさそうだ。仮に、会社が「所定昇給額を算定基礎とするベースアップ(=JR東労組の言う‘格差ベア’)」を回答した場合には、どのような対応をするのだろうか。争議予告を一旦撤回したが、スト権を行使するならば「10日前」までに厚労省や中労委への届出(予告)が必要だ。といっても、ストを断行する組織力はもはや…予断を許さぬ状況が続く…。

職場単位での大量脱退も発生！今こそジェイアール・イーストユニオンに結集しよう！

JR東労組の組織瓦解は加速している。職場単位での大量脱退も発生しているようだ。またJR東労組内では、トカゲの尻尾切りのように責任を一部の者になすりつけ、革マル組織の‘生き残り’を画策する不穏な動きもあると耳にする。組合員や脱退者には、だまされずにしっかりと注視し、正しい判断を行うことを期待する。